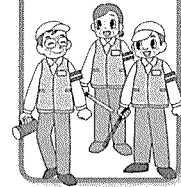


# 育成センターだより

令和元年度  
No. 416

長野市少年育成センター  
TEL. 228-8547  
FAX. 224-0109

## 有害環境浄化活動強化月間(2月) 春の安心ネット・新学期一斉行動(2月~5月)

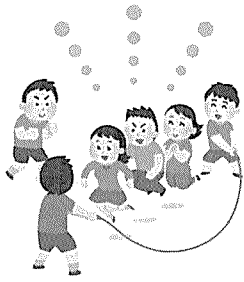


### 三学期の育成活動

令和時代初めての三学期を子供たちは迎えています。一年のまとめをし、新年度に希望を抱いていることでしょう。

年度の締めくくりのこの時期に当たり、『別れや旅立ち』を迎え不安定になりがちな子供たちの姿を、見守り励ましながら、家庭、学校、地域が連携をより強めてまいります。

そして、子供たちと笑顔で関わりながら、自立を支える環境の浄化、声かけ、非行防止活動に一層努めてまいります。



### この友と遊ぶのもあとわずか

### 育成活動の重点



★ 「自立に向けた第一歩  
買い物 お金の管理に目配りを」

お年玉やお小遣い 子供たちの期待もふくらむ時期、子供たちの買い物行動に目配り・心配りを

★ 「携帯・スマホの使い方ルール  
見直そう 親子で、学級で」

新規購入、買い換えの前に『使い方ルール 作るう見直そう』と家庭、地域に呼びかけましょう

★ 「寒さが緩むと気も緩む 深夜の外出に  
愛の眼差し・声かけを」

寒さが緩む二月後半から三月は気も緩む時期、深夜徘徊、遅い帰宅に愛の眼差し・声かけを

★ 「子供の相談は、  
受けとめ、寄り添い 語り合い」

別れや旅立ちの季節は子供の心も不安定 相談は聞き取り受けとめ寄り添って 未来を語り合いましょう

## 「インターネット社会の中で」

長野県警察本部生活安全部少年課  
スクールサポーター 瀧澤 喜美子

当時中学三年生だったA子は私と会う時、片手にはいつもスマートフォンを握りしめ、スマートフォンを操作しながら話をするような子でした。

A子のスマートフォンには、200人から300人の男性の名前が登録されており、時々男性と連絡を取り合っている様子を見ることができました。

ある時A子に「何処の誰だかわからない人に会うことは怖くないの?」と質問してみました。

「別に何も思わないよ。だってSNSで話しているし、悪い人はいない。会えばご飯も食べられるし。」

と、スマートフォンを見ながら答えたのです。A子の答えに驚きを感じていたA子には、インターネットで知り合った人だけが『自分を理解してくれる人』だったのかもしれない。

インターネットで知り合った人との抵抗もなく会ってしまうのはA子だけではありません。A子のような少年は他にも数多くいるのです。インターネットが急速に普及し便利に使えるようになった反面、その中に潜む危険に目を向

けることができないのが子供たちの現状です。

私は情報モラル教室を実施する時、次のような話をします。

「目に見える不審者からは逃げることはできる。

でも、インターネットの世界では相手が見えないし、文字や写真だけで相手のことを判断することができのらうか。

相手がウソをついたり犯罪の仲間にしてやろうと考えているのかもしれない。

ネットのやり取りだけで相手を信じるのは危険なことだよ。」

子供に携帯電話やスマートフォンを持たせることは簡単です。しかし、インターネットに潜む危険を子供たちに伝えないうまま、持たせたり使用させたりすることにリスクがあることを、我々大人は理解しなければいけません。

そして、日々変化していくインターネットの世界について、子供と一緒に学んでいくことが大人としての責任ではないでしょうか。



便利で楽しい  
スマホも危険が  
潜んでいる

特集

長野保護観察所

「立ち直りを支える地域のチカラ」

統括保護観察官 石塚 大輔

みなさんは、「犯罪や非行をした人」について、どのようなイメージを抱いていますか。「身勝手な人」「自分には縁がない」などでしょうか。

では、「犯罪や非行をした人」はどうなりますか。「逮捕され、刑務所や少年院に収容される」人もいますでしょう。ではそれで終わりですか。

そうではありません。犯罪や非行をして施設に収容された人は、いずれ社会に戻り、社会の中で更生を目指すこととなります。

では更生とは何でしょう。残念ながらその人が更生したかどうかを測るものさしはありません。したがって、例えば少年院を出てから10年間無事に過ごしたとしても、11年目に事件を起こしてしまえば、「ああ、あの人は更生してなかったのね。」と言われてしまうわけです。ですから、「更生した」



本当の自分は何処に



自分を見失わないで

とか「していない」といってその人を「判定」したり「評価」したりすることは意味が無いことで、「社会の中で一日一日を無事に積み重ねることこそが更生である」と言えるわけです。

そうであるならば、犯罪や非行をした人に対して「自分には縁がない」などと思うのではなく、社会の中で受け入れ、認め、あるいは戒め、健全に育てていくことが必要なのです。

そして、その社会とは国とか県といった大きな社会ではなく、人と人とのつながりがある「地域社会」なのです。

その「地域社会」の中で、犯罪や非行をした人と向き合い、更生を支えているのが「保護司」です。

保護司は法務大臣から委嘱をされた非常勤の国家公務員ですが、給与は支給されていません。保護司は民間人と

しての柔軟性と地域の実情に通じているという特性を生かしながら、犯罪や非行をして地域社会で保護観察を受けている人と毎月数回面接をし、生活状況を見守ったり相談にのったり指導したりしているほか、犯罪予防活動などの更生保護活動に日々取り組んでいます。

しかし、このような更生保護活動には地域のチカラが不可欠です。犯罪や非行のない誰もが暮らしやすい社会づくりを目指すためにも、まずは地域の皆様に「保護司」の存在や活動を知っていただき、御理解と御協力をいただきましたくお願いいたします。

関係機関、団体の皆様には地域の保護司から、連携や行事参加などの呼びかけがありましたら積極的に対応していただけますようお願い申し上げます。



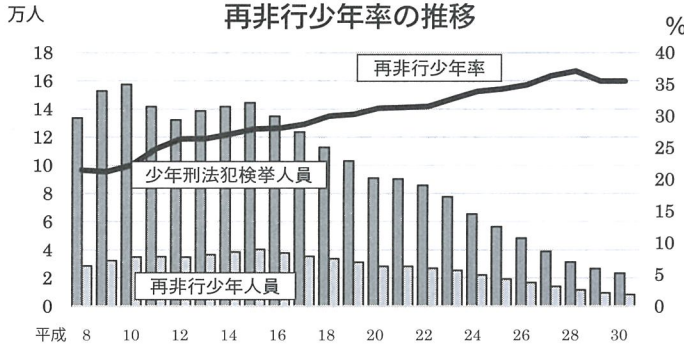
地域のチカラで、犯罪や非行を防止し立ち直りを支えます

参考 少年の再非行

刑法犯により検挙された少年のうち、再非行少年（前に道路交通法違反を除く非行により検挙（補導）されたことがあり、再び検挙された少年をいう。）の人員及び再非行少年率（少年の刑法犯検挙人員に占める再非行少年の人員の比率をいう。）の推移（最近23年間）は、次の図のとおりである。

再非行少年の人員は、平成16年から毎年減少しているが、再非行少年率は、9年を境に翌年から毎年上昇を続けている。

少年刑法犯検挙人員中の再非行少年の人員・再非行少年率の推移



(令和元年度版 犯罪白書 少年再非行・再犯より)

### 学校活動紹介 青木島小学校

## 『人々のつながりの中で』

六年担任 鈴木 佳奈子

あ 明るい挨拶

お お掃除すみずみ

き きれいな歌声

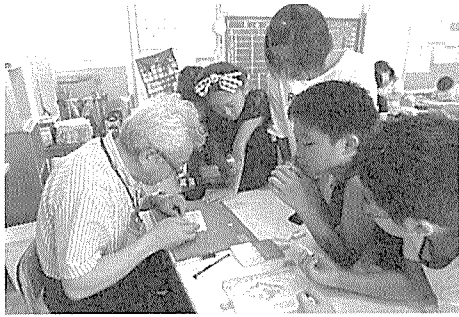
じ 自分から進んで

ま 毎日続けよう

これは青木島小学校が大切にしている子どもたちの合言葉です。職員も、この合言葉の下、子ども一人一人が自信や意欲を高め、生きる力を身につけながら自身の良さや可能性を伸ばしていけるように日々取り組んでいます。

また、信州型CS「青木島の子どもを語る会」では「つながり・広がる」を大切に考え、クラブ・読み聞かせや学習ボランティア、安全支援など地域の方と連携して、子どもたちを育てる学校を目指しています。

私が担任している六年でも、体験学習を通して自己を見つめることのできる子どもの



地域講師の先生から学ぶハンコづくり

育成を目指す。特に総合的な学習の時間では「人とのつながり」を大切に取組みました。

一組は、地域の歴史や町の歩みを歌（ラップ）にする活動を通して、青木島に愛着をもち、地域の一員としての自分について考えることができました。  
二組は、元パラリンピック選手との交流を通し、障害をもつ方の立場や思いについて考えることができました。  
三組は、地域の高齢者の方との交流活動の中で、他者の立場に立って考えたり高齢者の優しさに触れたりすることを通して、世代を超えて関わり、支え合うことの大切さを実感することができました。



地域デイサービスセンターでお年寄りの方と一緒に歌って

また、情報社会の中に生きる子どもたちにとって、人とのつながりは、インターネットの中にもあります。本校の携帯アンケートからは、安易なSNSへの投稿や書き込みなどをする児童がいることがわかり、「ネットモラル出前講座」を利用して、ネットとの適切なつきあい方について学びました。  
子どもたちを取り巻く環境は刻々変化していきますが、これからも多様な体験活動を通して、人とのつながりやふれあいの中で、子どもたちの健やかな心と体の育成を目指し、尽力していきたいと思えます。

### 地区活動紹介

## ハンチョーム

長野市PTA連合会犀北支会  
松ヶ丘小学校PTA会長

石坂 雄太

長野市PTA連合会犀北ブロックは、全十校から編成されており、小規模校から中・大規模校までと環境の違いがありますが、非常に横の繋がりが強く、行事といえば自然に助け合いのできる素晴らしいブロックです。

ブロック内で毎年割り振られております『研修会』という活動がございます。松ヶ丘小学校は本年度の当番校になっており、令和元年七月十三日に、少年育成センターの出前講座を利用して頂き『ネットワーク社会の子どもたち』という内容で開催させて頂きました。

近年あたりまえのように身近な存在になったインターネットの利用により、子供たちがどのような状況にあり、どのようなトラブルが起きているのか、青少年健全育成活動に日頃から携わっていらっしゃる職員の方々にリアルにお話し頂きました。当日は百名を超える保護者の方々を迎え、講演終了後は、いかに危険なことに繋がる恐れのあるものを保護者が認識し、責任をもって対応していく重要性が認識できたという声が上が

り、開催した意義を感じることでました。

今回利用させて頂きました出前講座では育成センターのお二人の主事の方に大変お世話になりました。何度も打ち合わせをする中で、自分自身勉強させられる部分があり、大変良い機会、良い出会いだったと思っております。

松ヶ丘小学校も少子化が進んでおり、研修会などを開催するにも人手不足の問題がありました。ただ大変な部分がありました。ただそんな中、当たり前のように、当日前から手伝いに来てくれた犀北ブロックの仲間たちには本当に感謝してもしきれない気持ちです。子どもたちの為に、その目的の為に自然に活動ができる素晴らしい人たちの集まりに感謝する出来事でした。今後とも各学校のPTA活動にご理解とご協力をお願い致します。



犀北ブロックPTA研修会、役員の方々

# 「一日少年育成委員の活動から」

6月15日、9月7日、11月2日、計3日間、小中高PTA役員の皆様中心に一日少年育成委員として長野駅、繁華街の巡回指導を体験してもらいました。

今年度は街頭指導の前に、犯罪学者小宮信男先生解説のDVD教材『子供防犯スクール（連れ去り・誘拐編）』を見ています。

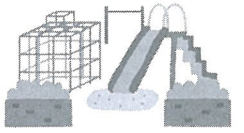
「犯罪は入りやすく・見えにくい場所で見えている」よく見ると街の景色の中に危険性が見えてくる

この視点「犯罪機会論」を持っていただき、長野駅前、繁華街を巡回指導していただきました。

## 参加者の感想から

「入りやすい、見えにくい」のキーワードから建物や街中を見てみると意外と危険箇所が多く、気をつけなければいつ巻き込まれるかわからないと感じました。

プリクラショップに入ってみると、中学生ぐらいかと思われる子供たちも多く、鏡の前でお化粧したり、ミニスカートで歩き回ったりしているのを見ると、もっと自分を守ってほしいと思います。自分の着たいものを着て何が悪いと言われれば何も言い返せないけど、リスクも伴うよ！と言ってあげたいと思います。



入りやすい、見えにくい  
守ってほしいと思います。自分の着たいものを着て何が悪いと言われれば何も言い返せないけど、リスクも伴うよ！と言ってあげたいと思います。



繁華街の巡回指導で

自分の子供と周りの道歩き、危険箇所を共有し、なるべく近寄らないようにするなどの工夫もしてあげたいし、予防に勝るものはないので一緒に考えたいです。  
スマホの使い方や与え方も難しく親の方がアレルギー反応みたい拒絶しがちですが、1つ1つ勉強して常に高いアンテナを張ってほしいです。  
(女性の参加者)

長野駅周辺をこういう形で歩いたのは初めてだったのでよい体験になりました。いつもとは違う見方をすることによって、こんなにも違う見え方がするのかと実感しました。  
子供がいる立場として、今日体験したことを地域、地元に戻って活かしたいと思いました。地域の街でも違う見方をすれば危険な場所はたくさんあるように思います。そういうことをPTAでもまた地区の関係でも伝えることができればと思います。  
最後に見たDVD『SNSトラブル編』は本当に子供たちにも見てもらいたいと思いました。

これからはネットと関係を切っても切れない時代だと思えます。  
(男性の参加者)

# 相談窓口の活動から

当センター設立当初から活動の柱として実施されてきました。相談専用の電話には本人ばかりではなく家庭や地域などから、青少年の非行・トラブルに関する多様な相談が寄せられています。

## 相談内容の推移

当センターの相談受付数は平成12年624件をピークに年々減少を続け、最近10年間は年間20件を前後しています。その理由としては少年非行の減少と関係機関の相談窓口が増えたことが考えられます。

相談内容も、「不良交友」「不純異性交遊」「怠学」などから「不登校」「家庭内暴力」「万引」「援助交際」「成人後の悩み」「親子関係」「家出」など少数ですが多様に変化してきています。20歳以上の方の相談もあり、何処へかけてよいのかわからない人の受け皿にもなっていると思えます。

## 今年度の相談内容

1月末現在で13件。電話相談が主体で、2件が本人から、それ以外は家族がほとんどでした。センターで対応を終えたものが大方でしたが、関係機関に繋げたり紹介したこともあり、聴いてもらえたという安心感や次に繋がったという安堵感が感じられました。  
今後さらに相談者の心に寄り添い、相談者が一歩を踏み出せる対応を目指して研鑽し、連携強化を図ります。

内容	年度	H28	H29	H30	R元(4~1月)
相談数		31件	21件	30件	13件
無言ワン切り		17件	6件	2件	4件

# ☆困ったら困る前に☆

少年育成センター相談ダイヤルへ

電話 228-8588

月々金曜日 8時30分~17時15分

※匿名でけっこうです

来所の相談にも応じています

## 教材DVDをお貸しします

- ① 親や先生が知らない子供防犯スクール 連れ去り・誘拐編 (24分)
- ② 中学生の命と心を守る 防ごう！性のトラブル (20分)
- ③ いじめの早期発見と対策シリーズ 保護者編 (26分)
- ④ スマホの安全な使い方教室 SNSのトラブルに (23分)
- ⑤ 親や先生が知らない子供防犯スクール ネット・SNSトラブル編 (25分)

## 編集後記

新しい令和の時代が幕を開けました。平成の良さを取り込みながら、課題を一つ一つ解消していきたいものです。  
年度を振り返ると「ネット・スマホ出前講座」の充実が印象深いです。学校やPTA、地域の現場に行つてこそ味わえる手応えを今後の活動に活かしていきます。  
青少年の非行・犯罪はまるで生き物のよう。時代に先駆けて変わっていきまふ。後れをとることなく学び続けて支援をしていかななくてはと強く感じています。  
最後に今年度一年間皆様には御理解と御協力をいただきありがとうございます。来年度もよろしくお願ひいたします。